

# 都市の風景に関する研究

## (第5回)

\* 文中敬称を省略します。

都市研究センター 研究理事  
渡辺 直行

### はじめに

前回「物語」について述べたところ「昨今は監視が厳しいので物語りなどできぬ」と言う人がいたので「それも物語りだ」と言ったらホッとして去っていった。ところが昨今の監視はとてもホッとはできないホットな問題だと言う人もいる。

言われてみれば監視社会、透明社会などという言葉にあまり違和感を感じなくなっている。監視カメラの数がまちづくりの象徴になっていたりもする。情報通信機器を悪用した監視もあると言う。これらは都市再生を考察する上でも重要な問題なので、一度その実態を整理しておく必要がある。

ということで今回は監視について考察するつもりでいたところ、先般「景観に関し話をするように」というお話があり急遽関心をそちらに移したので、監視は追って考えることとし、今回は景観について述べることにしたい。

本研究で「景観」を視野に入れるのは今回が初めてである。これまでは「風景」を考察してきたが、その横に「景観」を置いてみるとそれら相互の違いが改めて気になる。そこで「景観」とは何か、「風景」と「景観」との違いは何か、などということを少し時間をかけて考えてみたところ、それらを理解するためには前回の「物語」をもう少し進めて「芸術」について考察してみることが有効であるように思われた。「芸術」は「爆発」であるが、「景

観」を「爆発」させれば「風景」になるというわかりやすい発想である。

ということで今回は「爆発」について考えてみたい。なお、この「爆発」は昨今の物騒な事件とは何の関係もないので、監視は要らない。

### おわりに

「はじめに」を書き終えたところで時間切れになってしまった。別稿で紹介するスポットにスポットはまってしまったせいである。今回論じ足りなかった点は次回論じたい。

## 参考 街の風景(5) 魂のある風景

ともかくこれを見てまず感じるのは、(中略)私  
なりの解釈をすれば、第一次産業を第三次産業  
の頭の上に乗せようとしたのです(笑)。(中略)地  
面にあれば避けて通ればいいのですが、頭上  
にあるのですから、ついつい仰ぎ見てしまい、(中  
略)これは、ある程度エコロジストの考え方と似て  
います(笑)。

(吉本隆明「像としての都市」)

NHK 都市総合研究所編『感性都市への予感』  
ぎょうせい、1992年)

財産も知識も、蓄えれば蓄えるほど、かえって  
人間は自在さを失ってしまう。過去の蓄積にこだ  
わると、いつの間にか堆積物に埋もれて身動き  
ができなくなる。(中略)今までの自分なんか、蹴  
トバシてやる。そのつもりで、ちょうどいい。(中  
略)自分らしくある必要はない、むしろ“人間らし  
く”、生きる道を考えてほしい。(中略)たとえ、自  
分がうまくいって幸福だと思っても、世の中  
にはひどい苦勞をしている人がいっぱいいる。  
(中略)難民問題にしてもそうだし、飢えや、差別  
や、また自分がこれこそ正しいと思うことを認めら  
れない苦しみ。その他、言い出したらキリがない。  
深く考えたら、人類全体の痛みをちょっとでも感  
じとる想像力があつたら、幸福ということはありえ  
ない。

(岡本太郎『自分の中に毒を持って』)

青春出版社、1988年)

### 東京都墨田区

フィリップ・スタルク「炎のオブジェ」



東京都千代田区 岡本太郎「若い時計台」



